

2018 年度 研究所事業報告書

研究所名	人文科学研究所
------	---------

I. 研究成果の概要

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5 ヵ年)および 2018 年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこないできるだけわかりやすく記述してください。な

人文科学研究所は 2018 年度において 3 つの重点プロジェクト以外に、6 つの研究助成プログラムを組織し、人文科学・社会科学の深化と刷新を試みた。各重点プロジェクトは 5 ヵ年において、それぞれ(1)「史料の収集・蓄積を重視した日本近代社会・思想史研究」、(2)「現代社会と人間を解読するための哲学、倫理学、宗教学、社会学分野の研究者の協業による斬新な視角の模索」、(3)「グローバルなモビリティの渦中にあるアジア地域が直面する諸課題に関する考察と実践的な対応の模索」を強く意識しながら研究を行っている。「史料の収集・蓄積を重視した日本近代社会・思想史研究」においては、当研究所内で 50 年余りの歴史を有する近代日本思想史研究会が中心となり、中期的テーマを設定し研究成果を蓄積している。「現代社会と人間を解読するための哲学、倫理学、宗教学、社会学分野の研究者の協業による斬新な視角の模索」においては、「間文化現象学研究」と「暴力からの人間存在の回復」の 2 つのユニットによって研究を推進し、人間科学に関する学際的な研究を積極的に蓄積している。「グローバルなモビリティの渦中にあるアジア地域が直面する諸課題に関する考察と実践的な対応の模索」では、「政治・経済」的な側面および「観光・地理・文化」的側面からのアプローチを行い、グローバリゼーションに直面するアジア地域を多方面から研究している。

研究成果の発信と社会貢献

上記の長期目標をふまえて 2018 年度においては、以下のような研究成果の発信と社会貢献を具体的に行った。

まず①「敗戦と戦後政治体制構想」(代表:小関素明)では、公開セミナー「明治維新とは何か?」(史創研究会・奈良女子大学と共催)と 4 回の研究会を開催し、それらの成果を含む本研究会の研究成果をまとめた特集号「帰趨としての戦後日本」(『立命館大学人文科学研究所紀要』117 号)を刊行した。②「間文化現象学と暴力からの人間存在の回復」(代表:谷徹)では、「ジェンダーと身体」をテーマとするワークショップや、「間文化性と宗教」をテーマとするワークショップを開催した。また『立命館大学人文科学研究所紀要』118 号において、マーティン・ジェイ氏を招聘し開催した 2017 年度シンポジウムの記録を公刊した。③「グローバル化とアジアの地域」(代表:遠藤英樹)では、a)「グローバル化のなかの東アジア 3 国の動態:社会経済の変容と政治的再統合の比較アプローチ」をテーマとした日中韓三大学国際シンポジウムを主催、b) 立命館大学(衣笠キャンパス)において「日本型福祉モデル:「失われた 20 年」における変化と持続性」という国際ワークショップを開催、c) 立命館大学人文科学研究所・チェンマイ大学・立命館大学アジア太平洋大学の共催で「International Conference on Future of the Past: Tourism and Cultural Heritage in Asia」と題して大規模な国際カンファレンスを実施、d) サウス・オーストラリア大学からアンソニー・エリオット氏を招聘し「Mobile Lives and After(モバイル・ライヴズとその後)」と題する講演会を実施、e) マンチェスター・メトロポリタン大学からティモシー・エデンサー氏を招聘し「The Multiple Mobilities of Tourism(観光の多様なモビリティーズ)」と題する講演会および「観光におけるグローバルな移動性(モビリティ)」と題する国際シンポジウムを開催、f) 他にも研究会を何度か開催する等、積極的に研究成果を発信した。

若手研究者の支援

人文科学研究所では本年度も、読書会、研究会・ワークショップにおける発表、調査・フィールドワークなど、多様な機会をとらえて、若手研究者の育成をはかってきた。具体的には若手研究者自身がワークショップをコーディネートできる機会を提供したり、若手研究者育成を目的に国内外の最新業績を批判的に検討する読書会を開催したりした。さらに博士後期課程に在学する大学院生に対しても、積極的に研究会・ワークショップにおける発表機会を提供するとともに、現地調査・フィールドワークを実施した。これらの取組により若手研究者が高等教育機関に任用されるなど、その成果は着実に挙げられている。

本年度の研究活動においても未だ課題を残している部分はあるものの、所期の目的を順当に推進できたと言えよう。

II. 拠点構成員の一覧

本欄には、2019年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
研究所長・センター長	遠藤 英樹	文学部	教授
運営委員	加國 尚志	文学部	教授
	神田 孝治	文学部	教授
	藤巻 正己	文学部	特命教授
	谷 徹	文学部	教授
	足立 研幾	国際関係学部	教授
	川村 仁子	国際関係学部	准教授
	平野 仁彦	法学部	教授
	加藤 雅俊	産業社会学部	准教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	小関 素明	文学部	教授
	奈良 勝司	文学部	助教
	亀井 大輔	文学部	准教授
	北尾 宏之	文学部	教授
	伊勢 俊彦	文学部	教授
	ウェルズ 恵子	文学部	教授
	鳶野 克己	文学部	教授
	岡本 雅史	文学部	准教授
	萩原 正樹	文学部	教授
	林 芳紀	文学部	准教授
	佐藤 愛	言語教育センター	外国語嘱託講師
	日暮 雅夫	産業社会学部	教授
	小澤 亘	産業社会学部	教授
	江口 友朗	産業社会学部	准教授
	櫻井 純理	産業社会学部	教授
	松下 冽	国際関係学部	特任教授
	加藤 政洋	文学部	教授
	山本 理佳	文学部	准教授
	石崎 祥之	経営学部	教授
	羽谷 沙織	国際教育推進機構	任期制教員(准教授)
	駒見 一善	国際教育推進機構	准教授
	De Antoni Andrea	国際関係学部	准教授
	轟 博志	APU アジア太平洋学部	教授
	四本 幸夫	APU アジア太平洋学部	教授
	麻生 将	文学部	特任助教
	クロス 京子	国際関係学部	准教授
	松田 正彦	国際関係学部	教授
	本名 純	国際関係学部	教授

		石原 直紀	国際関係学部	教授
		福海 さやか	国際関係学部	准教授
		庵途 由香	文学部	教授
		花崎 育代	文学部	教授
		西岡 亜紀	文学部	准教授
		加納 友子	文学部	准教授
		原 幸一	文学部	教授
		福原 浩之	文学部	教授
		對梨 成一	文学部	助授
		斎藤 稔正	文学部	名誉教授
		芳村 弘道	文学部	教授
		佐藤 誠	国際関係学部	名誉教授
		龍澤 邦彦	国際関係学部	教授
		南川 文里	国際関係学部	教授
	学内の若手研究者	① 専門研究員・研究員	吉田 武弘	衣笠総合研究機構
富 嘉吟			衣笠総合研究機構	専門研究員
余 筠珺			アジア・日本研究所	専門研究員
② リサーチアシスタント				
③ 大学院生		田中 将太	文学研究科	博士前期課程
		伊故海 貴則	文学研究科	博士後期課程
		十河 和貴	文学研究科	博士後期課程
		宮下 祥子	社会学研究科	博士後期課程
		斉藤 仁志	文学研究科	博士後期課程
		海野 大地	文学研究科	博士前期課程
		織田 康孝	文学研究科	学振特別研究員 DC
		山口 一樹	文学研究科	学振特別研究員 DC
		寺澤 (奈良) 優	文学研究科	学振特別研究員 DC
		市川 博規	文学研究科	博士前期課程
		有村 直輝	文学研究科	博士後期課程
		酒井 麻依子	文学研究科	博士後期課程
		柳川 耕平	文学研究科	博士後期課程
		横田 祐美子	文学研究科	博士後期課程
		松田 智宏	文学研究科	博士後期課程
		下村 晃平	社会学研究科	博士後期課程
		一井 崇	社会学研究科	博士後期課程
		森田 耕平	文学研究科	博士後期課程
		谷崎 友紀	文学研究科	博士後期課程
		前田 一馬	文学研究科	博士後期課程
		ZHANG Ye	文学研究科	博士前期課程
		HUANG Rongquian	文学研究科	博士前期課程
		工藤 献	国際関係研究科	博士後期課程
Nino Viartasiwi		国際関係研究科	博士後期課程	

		松井 信之	国際関係研究科	博士後期課程
		川内 有子	文学研究科	博士後期課程
		越 拓野	文学研究科	博士後期課程
		田中 京	文学研究科	博士後期課程
		斬 春雨	文学研究科	博士後期課程
		楊 月英	文学研究科	外国人研究生
		吉岡 崇晃	社会学研究科	博士前期課程
		足立 弦也	社会学研究科	博士後期課程
		川口 由香	国際関係研究科	博士後期課程
		五十嵐 美華	国際関係研究科	博士後期課程
	④ 日本学術振興会特別 研究員(PD・RPD)	鈴木 崇志	衣笠総合研究機構	学振 PD
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研究生、研修生等)		猪原 透	文学部	非常勤講師
		今西 一	文学研究科	非常勤講師
		西田 彰一	文学部	非常勤講師
		眞杉 侑里	文学部	非常勤講師
		青柳 雅文	文学部	非常勤講師
		神田 大輔	文学部	非常勤講師
		田邊 正俊	文学部	非常勤講師
		小林 琢自	文学部	非常勤講師
		西口 清勝	経済学部	非常勤講師
		岡野 英之	アジア・日本研究機構	補助研究員
		早川 滋人	文学部	非常勤講師
		上村 晃弘	文学部	非常勤講師
		神村 有紀	文学部	非常勤講師
		栗谷 佳司	アジア・日本研究機構	客員研究教員
客員協力研究員		赤澤 史朗	人文科学研究所	上席研究員
		佐藤 太久磨	漢陽大学校	助教授
		城下 賢一	大阪薬科大学	准教授
		穎原 善徳	人文科学研究所	客員研究員
		島田 龍	人文科学研究所	客員研究員
		丸山 彩	人文科学研究所	客員研究員
		林 尚之	大阪府立大学	非常勤講師
		中谷 義和	人文科学研究所	上席研究員
		韓 準祐	多摩大学	専任講師
		安田 峰俊	人文科学研究所	人文研客員研究員
		佐々木 葉月	熊本大学大学院先導機構	特任助教
		井澤 友美	人文科学研究所	客員研究員
その他の学外者		藤野 真挙	東儀大学校	教授

	乙部 延剛	茨城大学	専任講師
	川崎 唯史	国立循環器病研究センター	非常勤研究員
	黒岡 佳柁	福州大学 (中華人民共和国)	副教授
	佐藤 勇一	福井工業高等専門学校	准教授
	池田 裕輔	東京大学	学振 PD
	小田切 建太郎	京都大学	学振 PD
	山本 勇次	大阪国際大学	名誉教授
	瀬川 真平	大阪学院大学	教授
	橋本 和也	京都文教大学	名誉教授
	石井 香世子	立教大学	教授
	古村 学	宇都宮大学	准教授
	大野 哲也	桃山学院大学	教授
	薬師寺 浩之	奈良県立大学	准教授
	三枝 暁子	東京大学大学院	准教授
	長尾 伸一	名古屋大学	教授
	西本 和見	中部大学	講師
	田中 啓太	尚美学園大学	専任講師
	玉置 えみ	学習院大学	准教授
研究所・センター構成員 計 134 名 (うち学内の若手研究者 計 38 名)			

Ⅲ. 研究業績

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2019年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	小関素明・藤野真羊	明治維新とは何か?	分担執筆	2018年12月	東京堂出版	田中希生 [編著]	pp. 256-288 (小関)、pp. 224-254 (藤野)
2	奈良勝司	幕末維新のリアル : 変革の時代を読み解く7章	分担執筆	2018年7月	吉川弘文閣	上田純子 [編]	pp. 43-76
3	奈良勝司	明治維新をとらえ直す	単著	2018年9月	有志舎		総頁数 352 頁
4	亀井大輔	デリダ——歴史の思考	単著	2019年4月	法政大学出版局		総頁数 276 頁
5	小田切建太郎	中動態・地平・竈——ハイデガーの存在の思索をめぐる精神的現象学	単著	2018年7月	法政大学出版局		総頁数 303 頁
6	遠藤英樹	フードビジネスと地域——食をめぐる文化・地域・情報・流通	分担執筆	2018年4月	ナカニシヤ出版	井尻昭夫・江藤茂博・大崎紘一・松本健太郎 [編]	pp. 95-105
7	遠藤英樹	観光社会学 2.0——拡がりゆくツーリズム研究	共著	2018年6月	福村出版	須藤廣	総頁数 241 頁
8	遠藤英樹・神田孝治・加藤政洋	ジョン・アーリ『オフショア化する世界——人・モノ・金が逃げ込む「闇の空間」とは何か?』	分担翻訳	2018年9月	明石書店	須藤廣・濱野健 [監訳]	pp. 187-211 (加藤)、pp. 245-265 (神田)、

							pp. 267-304 (遠藤)
9	遠藤英樹	越境する文化・コンテンツ・想像力— トランスナショナル化するポピュラ ー・カルチャー	分担執 筆	2018年10月	ナカニシヤ出版	高馬京子・松本健 太郎 [編]	pp. 191-202
10	遠藤英樹・神田 孝治	ワードマップ 現代観光学—ツーリ ズムから「いま」がみえる	編著	2019年1月	新曜社	橋本和也	総頁数 289 頁
11	遠藤英樹	幽霊の歴史文化学	分担執 筆	2019年2月	思文閣出版	小山聡子・松本健 太郎 [編]	pp. 267-309
12	加藤政洋	地図で楽しむ京都の近代	編著	2018年2月	風媒社	上杉和央	総頁数 151 頁
13	轟博志	鶴峯『海槎録』の再照明	分担執 筆	2019年3月	宝庫社(韓国)	許敬震 [編著]	pp. 259-271
14	韓準祐	地域観光と国際化	分担執 筆	2019年2月	くんぶる出版	朝水宗彦 [編]	pp. 47-74
15	麻生将	離島研究IV	分担執 筆	2018年10月	海竜社	平岡昭利 [監修]・ 須山聡・宮内久光・ 助重雄久 [編著]	pp. 175-188
16	クロス京子	ハイブリッドな国家建設—自由主義 と現地重視の狭間で	分担執 筆	2019年3月	ナカニシヤ出版	藤重博美、上杉勇 司、古澤嘉朗他	pp. 107-127
17	三枝暁子	古代・中世の地域社会—「ムラの戸 籍簿」の可能性	分担執 筆	2018年9月	思文閣出版	大山喬平	pp. 205-234
18	栗谷佳司	限界芸術論と現代文化研究—戦後日 本の知識人と大衆文化についての社会 学的研究	単著	2018年9月	ハーベスト社		総頁数 221 頁

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・ 共著の 別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・ 号数	その他編者・ 著者名	担当頁数	査読有無
1	小関素明	日本近代の公権力と戦争『革命』構想	単著	2019年1月	『立命館大学人文科学研究紀要』117		pp. 5-217	有
2	猪原透	「自由民権」と「社会主義」 のあいだ—久松義典の社会学 研究をめぐる—	単著	2019年1月	『立命館大学人文科学研究紀要』117		pp. 367-396	有
3	今西一	テロルの兇弾—白鳥事件・高 安知彦の手記	単著	2018年11月	中部大学『アリーナ』 21		pp. 40-447	有
4	海野大地	官民調和への移行と院外者— 20世紀転換期における自由党 系青年運動を通して—	単著	2019年1月	『立命館大学人文科学研究紀要』117		pp. 397-432	有
5	顛原善徳	日本国憲法第七十三条第三号 成立前史再考	単著	2019年1月	『立命館大学人文科学研究紀要』117		pp. 219-257	有
6	齋藤仁志	熊本県立農民道場に関する一 考察 (1)	単著	2018年6月	熊本近代史研究会, 『熊本近代史研究会会 報』558		pp.5-9	有
7	齋藤仁志	熊本県立農民道場に関する一 考察 (2)	単著	2018年8月	熊本近代史研究会, 『熊本近代史研究会会 報』560		pp.6-13	有
8	齋藤仁志	熊本県立農民道場に関する一 考察 (3)	単著	2018年10月	熊本近代史研究会, 『熊本近代史研究会会 報』562		pp.9-12	有
9	齋藤仁志	熊本県立農民道場に関する一 考察 (4)	単著	2018年11月	熊本近代史研究会, 『熊本近代史研究会会 報』563		pp.14-17	有
10	齋藤仁志	第三次「国策」満州移民と熊 本 (1)	単著	2018年12月	熊本近代史研究会, 『熊本近代史研究会会 報』564		pp. 21-24	有
11	齋藤仁志	第三次「国策」満州移民と熊 本 (2)	単著	2019年1月	熊本近代史研究会, 『熊本近代史研究会会 報』565		pp. 14-18	有
12	齋藤仁志	1930年代前半における熊本県 の「民間」満州移民計画—熊 本海外協会の活動を中心とし	単著	2019年3月	熊本近代史研究会, 『近代熊本』40		pp. 63-85	有

		てー						
13	佐藤太久磨	主権的秩序をめぐる二つの法理 (3) —— 帝国日本のインターナショナルリズムとその極北	単著	2018年6月	韓国・漢陽大学校日本学国際比較研究所, 『比較日本学』42		pp. 83-104	有
14	佐藤太久磨	植民地台湾と「分化」概念の交叉——東郷実と中川小十郎	単著	2019年3月	立命館史資料センター, 『立命館史資料センター紀要』2		pp. 77-106	無
15	佐藤太久磨	書評: 林尚之著『近代日本立憲主義と制憲思想』	単著	2018年5月	『図書新聞』3350		第4面	無
16	島田龍	左川ちかを探して(1) 左川ちか『硝子の道』と藤村青一『淡水と気温』	単著	2018年11月	『螺旋の器』2		pp. 2-11	有
17	島田龍	詩人の誕生—初期伊藤整文学と川崎昇・左川ちか兄妹	単著	2019年1月	『立命館大学人文科学研究紀要』117		pp. 285-346	有
18	島田龍	海の詩人 伊藤整と左川ちか—「海の捨児」から「海の天使」へ	単著	2019年1月	日本思想史研究会, 『日本思想史研究会会報』35		pp. 212-233	有
19	十河和貴	政党内閣期における台湾総督府の自律性と南進政策確立への模索—台湾総督府評議会の機能と影響—	単著	2019年3月	『第四屆台灣與東亞近代史青年學者學術研討會 會議手冊』		pp. 1-20	有
20	寺澤優	中川小十郎の震災体験と民間警衛組織構想	単著	2019年3月	立命館史資料センター, 『立命館史資料センター紀要』2		pp. 56-73	無
21	奈良勝司	近世社会の思惟構造と明治維新: 研究史の状況と展望によせて	単著	2018年9月	『日本思想史学』50		pp. 60-72	有
22	奈良勝司	明治維新論の再構築に向けて	単著	2018年6月	『現代思想』46(9)		pp. 168-181	有
23	西田彰一	守屋栄夫小伝—内務省での経歴を中心に—	単著	2019年1月	日本思想史研究会, 『日本思想史研究会会報』35		pp. 164-174	有
24	西田彰一	「誓の御柱」建設運動とその広がりについて	単著	2018年11月	『日本研究』58		pp. 139-167	有
25	林尚之	湾岸戦争時の憲法第九条をめぐる議論と安全保障構想	単著	2018年11月	『地域創造学研究』40		pp. 1-42	有
26	丸山彩	戦時下の歌—内地における『ウタノエホン 大東亜共栄唱歌集』の普及に関する検討—	単著	2019年1月	『立命館大学人文科学研究紀要』117		pp. 347-366	有
27	宮下祥子	日高六郎研究序説——「社会心理学」に根ざす戦後啓蒙の思想——	単著	2019年2月	同志社大学人文科学研究所, 『社会科学』48(4)		pp. 107-37	有
28	山口一樹	1930年代前半期における陸軍派閥対立—皇道派・統制派の体制構想—	単著	2019年1月	『立命館大学人文科学研究紀要』117		pp. 259-283	有
29	山口一樹	漫画と戦争—やませたかしと水木しげるの戦場体験をめぐる—	単著	2019年3月	『立命館大学国際平和ミュージアム資料研究報告』3		pp. 33-56	無
30	吉田武弘 (松葉集訳)	「兩院關係問題」與憲政常道論的興起	単著	2019年	国立政治大学台湾史研究所, 『跨域青年學者台灣與東亞近代史研究論集』3		pp. 14-17	有
31	Daisuke Kamei	Martin Jay and Jacques Derrida - After Downcast Eyes	単著	2019年2月	『立命館大学人文科学研究紀要』118		pp. 49-54	有
32	Masatoshi Tanabe	Between Ocularcentralism and Anti-ocularcentralism: Nietzsche's Concept of Vision	単著	2019年2月	『立命館大学人文科学研究紀要』118		pp. 55-62	有
33	Yuichi Sato	Some Secret involuntary Encounters: A quarter century after Downcast Eyes.	単著	2019年2月	『立命館大学人文科学研究紀要』118		pp. 63-73	有

34	Masafumi Aoyagi	Constellation and Vision - Motives of Vision in Adorno Philosophy	単著	2019年2月	『立命館大学人文科学研究所紀要』118		pp. 29-36	有
35	Daisuke Kanda	The “See” and “Motivation” Concepts in Husserl’s Phenomenology.	単著	2019年2月	『立命館大学人文科学研究所紀要』118		pp. 37-48	有
36	神田大輔	フッサール現象学における「煮る」ことと動機づけ	単著	2019年2月	『立命館大学人文科学研究所紀要』118		pp. 105-114	有
37	青柳正文	星座と視覚-アドルノにおける視覚をめぐる	単著	2019年2月	『立命館大学人文科学研究所紀要』118		pp. 115-128	有
38	亀井大輔	マーティン・ジェイとジャック・デリダ-『うつむく眼』の後で	単著	2019年2月	『立命館大学人文科学研究所紀要』118		pp. 129-139	有
39	田邊正俊	「反視覚中心主義」と「視覚中心主義」の“あいだ”で-『うつむく眼』を手がかりとしたニーチェ思想をめぐる一考察	単著	2019年2月	『立命館大学人文科学研究所紀要』118		pp. 139-152	有
40	佐藤勇一	いくつかの密かで非意図的な出会い-『うつむく眼』から四半世紀	単著	2019年2月	『立命館大学人文科学研究所紀要』118		pp. 153-165	有
41	横田祐美子	実存とその表現をめぐる問い-ジョルジュ・パティユにおける実存主義と生の言語について	単著	2019年2月	『立命館大学人文科学研究所紀要』118		pp. 171-190	有
42	黒岡佳征	「存在の思考」と間文化性への試論	単著	2019年2月	『立命館大学人文科学研究所紀要』118		pp. 237-256	有
43	遠藤英樹	観光をめぐる「社会空間」としてのデジタル・メディア-メディア研究の移動論的転回	単著	2019年3月	観光学術学会, 『観光学評論』7(1)		pp. 51-65	有
44	神田孝治	『Pokémon GO』が生じさせる移動と観光振興	単著	2019年3月	『立命館大学人文科学研究所紀要』119		pp. 119-147	無
45	藤巻正己	チャイナタウンはもはや“チャイナタウン”ではない! “外国人労働者の街”だ! -クアラルンプルの<ツーリズムスケープ>瞥見-	単著	2019年3月	『立命館大学人文科学研究所紀要』119		pp. 29-55	無
46	轟博志	朝鮮時代古地図に現れた古代都市の痕跡に関して (韓国語)	単著	2018年12月	Journal of the Korean Research Association of Old Maps, 10		pp. 59-77	有
47	轟博志	新羅北條通復原序説 (韓国語)	単著	2019年2月	Asia Review, 8		pp. 139-161	有
48	Yukio Yotsumoto	A different interpretation from Cornet’s on tourism development in an ethnic minority village in China	共著	2018年7月	Asia Pacific Journal of Tourism Research, 23/ 9	Liguo Wang	pp. 847-861	有
49	Yukio Yotsumoto	Conflict in tourism development in rural China	共著	2018年8月	Tourism Management, 70	Liguo Wang	pp. 188-200	有
50	四本幸夫・韓準祐	地方自治体の観光まちづくりの取り組みと課題	共著	2019年3月	多摩大学, 『多摩大学グローバルスタディーズ学部紀要』11	畠田展行	pp. 73-92	無
51	薬師寺浩之	福祉の現場から 国際ボランティアツーリズムが支援地域にもたらす影響	単著	2018年8月	『地域ケアリング』20(9)		pp. 51-53	無
52	麻生将	人文地理学研究における視覚資料利用の基礎的研究-絵画・写真の構図に着目して-	単著	2019年3月	大阪府立大学・大阪市立大学, 『空間・社会・地理思想』22		pp. 83-88	無
53	DE ANTONI Andrea	Steps to an Ecology of Spirits: Comparing Feelings of More-than-Human, Immaterial Meshworks?	単著	2018年6月	Nature Culture (More-than-Human Worlds: A Nature Culture Blog Series)		Online	無

54	加藤雅俊	書評：中谷義和『国家論序説』（御茶の水書房、2017年）	単著	2018年7月	『立命館大学人文科学研究紀要』116		pp. 157-166	無
55	加藤雅俊	文献紹介：中谷義和・朱恩佑・張振江編『新自由主義的グローバル化と東アジア：連携と反発の動態分析』（法律文化社、2016年）	単著	2018年7月	『立命館大学人文科学研究紀要』116		pp. 167-174	無
56	加藤雅俊	海底海洋資源の調査・開発を進める上で必要となる社会的技法とは－政治学の立場から－	単著	2018年8月	第27回海洋工学シンポジウム予稿集（OES27-039）		pp. 1-6	無
57	加藤雅俊	諫早湾干拓紛争からみる紛争処理システムとしての司法制度の意義と限界－政治学の立場から－	単著	2018年10月	法学セミナー，766		pp. 44-49	無
58	加藤雅俊	書評：藤田菜々子『福祉世界』（中央公論新社、2017年）	単著	2018年10月	『横浜国際社会科学研究』23(2)		pp. 97-104	無
59	加藤雅俊	緊縮国家の政治的帰結－オーストラリアを事例として－	単著	2018年10月	日本政治学会研究大会報告ペーパー		pp. 1-17	無
60	加藤雅俊	開発と環境保全をめぐる認識の変化とその社会的含意	単著	2018年11月	次世代海洋資源調査技術・社会科学レファレンス Vol.2 『海底鉱物資源調査・開発関連産業の海外進出に向けて－太平洋諸島を中心に－』		pp. 9-14	無
61	加藤雅俊	Welfare State Theory and the Japanese Model: Features and Dynamics	単著	2019年2月	Working Paper on “Japanese Welfare Model: Continuities and Changes during “the Lost Two Decades””		pp. 1-15	無
62	加藤雅俊	「東アジア福祉国家論」から「東アジア発の福祉国家論」へ－福祉国家論の理論的刷新に向けて－	単著	2019年3月	進化経済学会名古屋大会報告ペーパー		pp. 1-21	無
63	加藤雅俊	書評：田中拓道『福祉政治史：格差に抗するデモクラシー』（勁草書房、2017年）	単著	2019年3月	『横浜法学』27(3)		pp. 557-578	無
64	加藤雅俊	Social Problems and Welfare State Transformations in Japan: from the Point of Comparative Politics	単著	2019年3月	International Symposium on “Comparative Approach to Socio-Economic Transition and Trends of Political Reintegration in East Asian Countries under Globalization” (2巻)		pp. 76-94	無
65	中谷義和	Some Political Trends of Nationalism and Democracy in Contemporary Japan: from a View of the State Theory	単著	2018年7月	『立命館大学人文科学研究紀要』116		pp. 113-129, 131-145	無
66	中谷義和	Point of View to the Contemporary World in Transition: Politico-Social Movements of Inclusion and Exclusion	単著	2019年3月	International Symposium on “Comparative Approach to Socio-Economic Transition and Trends of Political Reintegration in East Asian Countries under		pp. 9-20	無

					Globalization”(1巻)			
67	日暮雅夫	ハーバーマス討議理論の現代的 可能性	単著	2019年3月	進化経済学会名古屋大 会報告ペーパー		pp. 1-8	無
68	松下洸	新自由主義型グローバル化と 岐路に立つ民主主義(上)新自 由主義の暴力的表層と深層	単著	2019年2月	『立命館国際研究』 31(3)		pp. 521-549	無
69	松下洸	ロベス・オブラドールの時 代：メキシコ社会の再生に向 けた課題と展望	単著	2018年10月	『立命館国際研究』 31(2)		pp. 129-177	無
70	西口清勝	第10回「日中韓3大学国際シ ンポジウム」	単著	2018年7月	『立命館大学人文科学 研究所紀要』116		pp. 175-180	無
71	張擘	日本における中国人のコンテ ンツツーリズム—安倍清明 に関する「聖地巡礼」を事例 に一	単著	2019年3月	『立命館大学人文科学 研究所紀要』119号		pp. 57-117	無
72	クロス京子	『女性・平和・安全保障』の パラドックス—ジェンダーか ら見る紛争後リベリアのハイ ブリッド治安部門改革	単著	2018年12月	『国際政治』194		pp. 141-156	有
73	Wells, Keiko	Variations and Interpretations of the Japanese Religious Folk Ballad, Sansho-Dayu, or "Princess Anju and Prince Zushio" (3): Re-Creation in Modern Fiction, Film, and Children's Literature.	単著	2018年	Journal of Ethnography and Folklore		pp. 44-67	有
74	ウェルズ恵 子	ヴァナキュラー文学の研究： 定義・課題・提言	単著	2019年3月	『立命館言語文化研 究』30(4)		pp. 133-148	有
75	西岡亜紀	「日本語」でフィクションを 書くという格闘—マチネ・ポ エティックと大岡信をつなぐ線 —	単著	2019年3月	『昭和文学研究』78		pp. 41-54	有
76	花崎育代	大岡昇平『花影』の生成— 初出原稿からの考察—子供 の声・「怨み」の削除・葉子の 孤絶—	単著	2018年4月	『国語と国文学』 95(4)		pp. 3-19	有
77	三枝暁子	脇田晴子の中世都市論をめぐ って	単著	2018年4月	『歴史学研究』969		pp. 17-24	有
78	芳村弘道	明鈔本『古今歳時雜詠』考	単著	2018年5月	『學林』66		pp. 18-58	有
79	斬春雨	詹駉事跡考述	単著	2018年5月	『學林』66		pp. 59-81	有
80	楊月英	法學者の心の苦しみ—董康 『書舶庸譚』中の苦澁に満ち た戀愛を通して— 附 董康「河東君行述」	共著	2018年5月	『學林』66	路璐譯	pp. 98-130	有
81	富嘉吟	『白氏長慶詩譜』の著者李璣 について—南宋における白居 易受容を視野に入れつつ—	単著	2018年12月	『白居易研究年報』19		pp. 280-230	有
82	富嘉吟	尾張明倫堂刊本『唐丞相曲江 張先生文集』をめぐって	単著	2018年12月	『汲古』74		pp. 27-33	有
83	芳村弘道	董康『書舶庸譚』九卷本譯注 (八)	単著	2019年3月	『立命館白川静記念東 洋文字文化研究所紀 要』11		pp. 83-99	有
84	富嘉吟	『尾張徳川家藏書目録』所收 漢籍索引(別集・宋代以前)	単著	2018年5月	『學林』66		pp. 199-210	有
85	江口友朗	A Comparative Analysis of Aspects of Private and Autonomous Income Distributions among households in Asian Countries: Thailand, Cambodia, Indonesia, and	共著	2018年	Proceedings of 30th Annual Conference of the European Association for Evolutionary Political Economy (欧州進化経済学会)	Sinudom ARISSARA, and Yorihiko ANDO	全12頁	有

		South Korea			On Line 版			
86	中谷義和	Japanese Constitutional Principles as a Bridgehead to Global Democracy.	単著	2018年6月	UC Santa Barbara , global-e		pp.11-33	有
87	中谷義和	Global Syndrome of Neopopulism: A Symptom of Authoritarian Reaction in the Era of 'After Globalization'	単著	2018年6月	Ritsumeikan Law Review ,36		pp.75-93	有
88	龍澤邦彦	保護する責任の原則	単著	2019年3月	『立命館国際研究』31(4)		pp.15-64	有
89	南川文里	包摂と分裂のカリキュラムーニューヨーク州教育改革と多文化主義論争ー	単著	2018年5月	『アメリカ研究』(52)		pp.157-178	有
90	川村仁子	大量破壊兵器を用いた『テロリズム』に対するグローバル・ガヴァナンスの試み: 科学・技術ガヴァナンスの視座から	単著	2019年3月	『立命館国際研究』31(4)		pp.125-140	有

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	小関素明	王政復古とは何か	2018年12月9日	奈良女子大学・史創研究会シンポジウム、立命館大学	
2	伊故海貴則	横井小楠の議論(公議)構想と世界認識	2018年5月29日	近代日本思想史研究会、立命館大学	
3	伊故海貴則	幕末における「議論」と「意思決定」の問題構造ー横井小楠を中心にー	2018年6月30日	日韓次世代学術フォーラム第15回国際学術大会、静岡県立大学	
4	伊故海貴則	横井小楠からみる幕末期の議論構造と世界認識ー道理・武威・一致ー	2018年9月1日	「公議」研究会、立命館大学OICキャンパス	
5	伊故海貴則	「さらに新しい歴史学をめざして」木下論文をうけて	2019年1月20日	京都民科歴史部会『新しい歴史学のために』第293号特集「さらに新しい歴史学をめざして」合評会、キャンパスプラザ	
6	伊故海貴則	府藩県三治期における三河国「十藩集会」	2019年1月26日	第45回機密費研究会、早稲田大学	
7	伊故海貴則	「道理」・「攘夷」・「一致」ー横井小楠における「議論」と世界認識の特質ー	2019年2月9日	東京歴史科学研究会2月例会「自由論題報告会」、一橋大学	
8	伊故海貴則	吉田武弘氏の業績検討ー「公議」研究の視点も交えてー	2019年2月22日	大阪歴史学会近代史部会業績検討会、豊島区民センター	
9	今西一	大相撲と女性の「ケガレ」	2019年3月24日	総合女性史学会2018年度大会、昭和女子大学	
10	海野大地	北清事変期における興亜論の実利と精神	2018年7月14日	東アジア近代史学会	
11	齋藤仁志	熊本県農会による朝鮮移民事業	2018年8月11日	熊本近代史研究会例会、熊本県総合福祉センター	
12	佐藤太久磨	「民族心理(学)」と植民統治権力の弁証ー東郷夷小論	2018年7月	東アジア思想史研究の現在研究会、立命館大学	
13	島田龍	2人の詩人 伊藤整から左川ちかへ	2019年1月3日	「文学史を読みかえる」研究会例会、京都	
14	十河和貴	政党内閣期の台湾総督府と「南支南洋」経済政策確立への模索ー台湾総督府評議会の変容を中心としてー	2019年1月25日	近代日本思想史研究会、立命館大学	
15	十河和貴	戦前期政党内閣制と「党弊」抑制システム創出への模索ー第二次若槻内閣期行政整理問題を主題としてー	2019年2月16日	近現代史研究会2月例会、名古屋大学	
16	十河和貴	第二次若槻内閣の行政制度改革構想と政党内閣制	2019年2月28日	日本史研究会近現代史部会、機関誌会館	
17	十河和貴	政党内閣期における台湾総督府の自律性と南進政策確立への模索ー台湾総督府評議会の機能と影響ー	2019年3月24日	第四屆台灣與東亞近代史青年學者學術研討會、国立政治大学(台北)	
18	奈良勝司	条約勅許・万国公法・大攘夷 一条勅許後の対外関係の構想と展開	2018年6月9日	明治維新史学会2018年度大会:シンポジウム「慶応三・四年を問い直す」、駒澤大学	

19	奈良勝司	三谷博『維新史再考』(NHK ブックス、2017年)を読む	2018年7月14日	日文研共同研究会「明治日本の比較文明的考察」、国際日本文化研究センター
20	奈良勝司	古賀侗庵の国家観と世界認識体系	2018年9月30日	日文研共同研究会「中国近代革命の思想的起源」(楊班第3回研究会)、国際日本文化研究センター
21	奈良勝司	幕末維新期の『公議』—近代国家建設における一致・統合・動員の観点から—	2018年12月15日	国際日本文化研究センター主催国際研究集会「世界史のなかの明治/世界史にとっての明治」、国際日本文化研究センター
22	奈良勝司	明治維新論の今日的課題と前提としての近世日本	2019年3月	『教養としての世界史の学び方』ワークショップ+合評会、立命館大学茨木キャンパス
23	西田彰一	南原繁と笈克彦	2018年8月18日	南原繁研究会、学士会館
24	西田彰一	『政治教育講座』における水野錬太郎の政治思想	2018年10月14日	日本思想史学会大会、神戸大学
25	西田彰一	モダニティの中での相互変容	2018年10月20日	国際研究フォーラム アジアの宗教文化、國學院大學
26	西田彰一	奈良の志賀直哉	2019年2月17日	奈良県立大学ユーラシア研究センターフォーラム2019、奈良県立大学
27	藤野真挙	天人関係の明治維新	2019年2月16日	明治維新150周年記念連続公開セミナー『明治維新とは何か?』出版特別記念シンポジウム、奈良女子大学
28	藤野真挙	怒りの道徳—西周における法哲学と心理学—	2018年12月1日	西周シンポジウム、津和野町教育委員会、津和野町教育委員会養老館
29	藤野真挙	西周の道徳教育構想	2018年11月30日	西周研究会、西周研究会主催、島根県立大学浜田キャンパス
30	藤野真挙	明治維新と個人	2018年10月27日	明治維新150周年記念連続公開セミナー明治維新とは何か、奈良女子大学
31	丸山彩	日本軍政下のジャワにおいて歌われた歌— <i>Djawa Baroe</i> (『ジャワ・バル』) 掲載曲を中心に—	2018年6月30日	日韓次世代学術フォーラム 第15回国際学術大会、静岡県立大学
32	丸山彩	戦争期の子どもたちが歌った歌—『ウタノエホン 大東亜共栄唱歌集』の普及に関する検討—	2018年10月	日本音楽教育学会第49回大会、岡山大学
33	丸山彩	日本軍政下のジャワのニュース映画	2018年12月	第12回国際日本語教育・日本研究シンポジウム、香港理工大學
34	宮下祥子	日高六郎における「社会心理学」の思想と戦後啓蒙	2018年10月6日	日本現代思想史研究会、早稲田大学
35	宮下祥子	戦後啓蒙のなかの「社会心理学」の思想—日高六郎を中心に—	2018年11月25日	北陸史学会第60回大会、金沢大学サテライトプラザ
36	宮下祥子	日高六郎研究序説	2018年11月30日	同志社大学人文科学研究所第8研究11月例会、同志社大学今出川キャンパス
37	山口一樹	1930年代前半における陸軍派閥対立—皇道派・統制派の体制構想—	2018年9月22日	近代日本思想史研究会、立命館大学
38	山口一樹	漫画と戦争—やなせたかしと水木しげるの戦場体験をめぐって—	2018年12月13日	メディア資料研究会、立命館大学国際平和ミュージアム
39	吉田武弘	大正期における政党政治と貴衆両院関係の展開	2018年5月12日	名古屋歴史科学研究会2018年大会、中京大学
40	吉田武弘	貴族院「政党化」再考—憲政常道・情意投合・両院絶断	2018年9月2日	機密費研究会、早稲田大学
41	Takashi Kakuni	Not Touching Him. Merleau-Ponty Around Derrida's Lecture of Merleau-Ponty	2018年4月	Symposium on "Phenomenology and "Post-Structuralism, Chinese University of Hong Kong
42	加國尚志	錯綜体、潜在性—市川浩身体論再読	2018年9月	日仏哲学会プレ・イベント企画「見果てぬ哲学」、明治大学
43	小田切建太郎	ハイデガーと「宗教について」	2019年3月	「間文化性と宗教」
44	遠藤英樹	デジタルな「虚構」によって「現実」化される観光—「情動のメディア」としてのモノのモビリティーズ	2018年7月	2018年度 観光学術学会 第7回大会 二松學舎大学 九段キャンパス
45	遠藤英樹	イノベーションを越えるイノベーション—グローバルなうねりの中で加速されていくローカルなイノベーション	2018年11月	2018年度 第8回 中日国際セミナー「グローバルシティと地域イノベーション」
46	Koji Kanda	The various aspects of hospitality in tourist places: A case study of Yoron	2018年8月	International Conference on Future of the Past: Tourism and Cultural Heritage

		Island in Japan		in Asia, Ritsumeikan University	
47	神田孝治	地図と新たなモバイル・アセンブリッジ—『Pokémon GO』によって生じる観光に注目した考察	2018年7月	2018年度 観光学術学会 第7回大会 二松学舎大学 九段キャンパス	
48	藤巻正己	グローバル都市化するクアラルンプールのランドスケープ/エスノスケープ/ツーリズムスケープの変貌—その地誌的素描—	2018年11月	2018年度 人文地理学会大会 特別研究発表 奈良大学	
49	轟博志	新羅駈路の歴史地理学的線形推定	2019年1月	Exploring Channels of Civilization Exchange in East Asia—Studies on Ancient Routes and Roads.	
50	轟博志	統一新羅時代における海南通の経路について	2018年12月	韓国文化歴史地理学会	
51	轟博志	Sea road or land road? Silk Road in Korea	2018年12月	16th ASIA PACIFIC CONFERENCE	
52	轟博志	鶴峯使行路の歴史地理学的検討	2018年11月	鶴峯『海槎録』再照明学術会議	
53	轟博志	韓国古代都市における景観の継承—南原京の事例—	2018年11月	2018年度 人文地理学会大会 奈良大学	
54	轟博志	Characteristics and continuity of road traffic in Silla	2018年10月	T2M Annual Conference2018 in Montreal	
55	轟博志	古代由来都市立地の連続性	2018年6月	大韓地理学会大会	
56	轟博志	朝鮮の峠—国土の人文と自然が疎通する窓口	2018年6月	「峠の生態と文化」ソウル大学アジア研究所、韓国山林科学院	
57	Yukio Yotsumoto	The prospects of the Ifugao heritage tourism in the Philippines: A sociological analysis	2018年8月	International Conference on Future of the Past: Tourism and Cultural Heritage in Asia, Ritsumeikan University	
58	Kazem Vafadari and Yukio Yotsumoto	Tourism and Revival of Agricultural Heritage Landscapes: The Case of Kunisaki Peninsula in Oita Prefecture, Japan	2018年12月	The 16th Asia Pacific Conference, Ritsumeikan Asia Pacific University	
59	Kazem Vafadari and Yukio Yotsumoto	Regional examples of community development & revitalization efforts through tourism	2019年1月	UNWTO, JICA and APU, Future Tourism Leaders Workshop “Community development and revitalization through tourism	
60	薬師寺浩之	銃撃体験というダークツーリズム経験に関する試論	2018年7月	観光学術学会第7回大会, 二松学舎大学九段キャンパス	
61	薬師寺浩之	Dark Tourism Experiences amongst Japanese Tourists in Kanchanaburi, Thailand	2018年8月	International Conference on Tourism and Cultural Heritage in Asia, 立命館大学衣笠キャンパス	
62	薬師寺浩之	Experiences among Japanese Orphanage Volunteer Tour Participants in Siem Reap, Cambodia	2018年9月	6th International Conference on Hospitality and Tourism Management, The Grand Kandyan Hotel, Kandy, Sri Lanka	
63	薬師寺浩之	銃撃体験というダークツーリズム経験に関する考察—カンボジアの事例を中心に—	2018年11月	グローバル化とアジアの地域研究会、立命館大学衣笠キャンパス	
64	韓準祐	済州4・3事件をめぐるダークツーリズムに関する試論	2018年7月	日本国際文化学会 第17回大会、多摩大学湘南キャンパス	
65	Junwoo HAN	“Darkness” of the Jeju April 3rd Incident	2018年8月	International Conference on Future of the Past: Tourism and Cultural Heritage in Asia, Ritsumeikan University	
66	麻生 将	教会に関わる人々の多様性と空間スケール—美濃ミッションを事例に—	2018年11月	2018年人文地理学会大会 奈良大学	
67	麻生 将	昭和戦前期の教会における信徒・教職者の人口移動—1930年頃的美濃ミッションを事例に—	2019年3月	第13回キリスト教史学会 西日本部会 関西学院大学大阪梅田キャンパス	
68	DE ANTONI Andrea	憑依と除霊における感覚の比較—現代中部イタリアの悪魔祓いと現代日本三好市山城町賢犬神社の御祈禱を事例に	2018年8月	医療文化研究会	
69	DE ANTONI Andrea	Skills of Feeling with the World: Affective Imagination, Embodied Memories and Materiality in the Emergence of Sociality	2018年9月	Association of Social Anthropologists of the UK and Commonwealth (ASA)	Panel Organizer (with Emma Cook)
70	DE ANTONI Andrea	She Talks to Angels: Spirit Becomings, Embodied Memories and Affective	2018年9月	Association of Social Anthropologists of the UK and Commonwealth (ASA)	

		Imagination Skills in Catholic Exorcism in Contemporary Italy			
71	DE ANTONI Andrea	The Bodies They Are a Changin': From Symbolic Interpretations of Spirits, Liminality and Pollution, to Perceptions and Feelings	2018年10月	Itineraries of the Sacred: Reassessing the Field: The Study of Japanese Religion and Thought in the 21st Century	
72	DE ANTONI Andrea	Where I End and You Begin: Steps to Comparing Entanglements of Spirit Possession and Biomedicine	2018年12月	Embodying Modern "Scientific" Medicine and "Religious/Spiritual" Healing: A Comparative Perspective on Non-Voluntary Spirit Possession and Exorcism	
73	DE ANTONI Andrea	外国人研究者がみた日本の人権	2018年12月	京都人権文化講座	
74	DE ANTONI Andrea	スペクターのスペクトラムー現代イタリアと日本における精霊と憑依に関する体験・感覚・情動の比較に向かつて	2019年1月	京都人類学研究会	
75	加藤雅俊	紛争処理システムとしての裁判制度の意義と限界ー政治学の視点からー	2018年5月	日本法社会学会学術大会「ミニシンポジウム①『諫早湾干拓紛争』の諸問題ー法学と政治学からの分析」	
76	加藤雅俊	合評会「藤田菜々子『福祉世界』(中公選書、2017年)」討論者	2018年7月	経済学史学会関西西部会第174回例会	
77	加藤雅俊	海底海洋資源の調査・開発を進める上で必要となる社会的技法とはー政治学の立場からー	2018年8月	第27回海洋工学シンポジウム	
78	加藤雅俊	ボブ・ジェソップ『国家』をめぐってーその意義と課題ー	2018年10月	批判的実在論研究会	
79	加藤雅俊	「緊縮国家」の政治的帰結ーオーストラリアを事例としてー	2018年10月	日本政治学会研究大会	
80	加藤雅俊	Welfare State Theory and the Japanese Model: Features and Dynamics	2019年2月	Workshop on "Japanese Welfare Model: Continuities and Changes during "the Lost Two Decades""	
81	加藤雅俊	Japanese Welfare Model in Transition: Continuity and Change in the Corporate Centered Conservative Welfare State	2019年2月	International Postgraduate and Academic Conference on "East Asia in Transition: Local Challenges under the Globalized World"	
82	加藤雅俊	Limits of the Judicial System as a Form of Conflict Resolution in Modern Society: the case of social conflict in Isahaya City	2019年2月	International Postgraduate and Academic Conference on "East Asia in Transition: Local Challenges under the Globalized World"	
83	加藤雅俊	「東アジア福祉国家論」から「東アジア発の福祉国家論」へー比較福祉国家論の理論的刷新に向けてー	2019年3月	進化経済学会名古屋大会	
84	加藤雅俊	Commentator on "Politics and Diplomacy"	2019年3月	International Symposium on "Comparative Approach to Socio-Economic Transition and Trends of Political Reintegration in East Asian Countries under Globalization"	
85	加藤雅俊	Social Problems and Welfare State Transformations in Japan: from the Point of Comparative Politics	2019年3月	International Symposium on "Comparative Approach to Socio-Economic Transition and Trends of Political Reintegration in East Asian Countries under Globalization"	
86	加藤雅俊	批判的実在論における『戦略・関係論アプローチ』の位置と課題ーボブ・ジェソップの『国家』などを手がかりとしてー	2019年3月	批判的実在論研究会	
87	中谷義和	Point of View to the Contemporary World in Transition: Politico-Social Movements of Inclusion and Exclusion	2019年3月	International Symposium on "Comparative Approach to Socio-Economic Transition and Trends of Political Reintegration in East Asian Countries under Globalization"	
88	日暮雅夫	ハーバーマス討議理論の現代的可能性	2019年3月	進化経済学会名古屋大会	
89	クロス京子	Redressing Historical Injustice in Bangsamoro: The Way forward to Pursue People-Centered Transitional Justice	2018年12月	Japan Association for Human Security Studies, 2018 Annual Conference, Hiroshima City University	

90	クロス京子	東ティモールの治安部門改革—国連と政府のせめぎあいから生まれた国家建設の行方	2018年11月	日本国際政治学会2018年度研究大会、大宮ソニックシティ	
91	クロス京子	紛争後の和解と国家建設—アジアにおける移行期正義の現状	2018年7月	熊本大学・立命館大学共同セミナー「アジアの国境なき諸問題—グローバルな視座からの考察」、熊本大学	
92	庵途由香	北韓「慰安所」関連資料—遺物・証言の文献的検証を中心に	2018年8月	日本軍「慰安婦」資料発掘の現在と今後の課題、東北アジア歴史財団会議室、韓国・ソウル	
93	ウェルズ恵子	ヴァナキユラー文学の研究：定義・課題・提言	2018年9月	東大研セミナー「ヴァナキユラー文化研究の輪郭線—野生の文化を考える、野生の学問を考える—(科研「パブリック・ヒストリー構築のための歴史実践に関する基礎的研究」(研究代表者：菅豊)第8回研究会)」、東京大学	
94	ウェルズ恵子	Sad and Bitter Lullabies of Japan: Creation and Recreation of Child Nursemaids from Labor to Popular Culture.	2018年4月	Department of Language, Philosophy and Communication Studies, Utah State University	
95	ウェルズ恵子	Voice(s) and Gender in a Japanese Religious Ballad Cycle, Sanshō Dayū (Sanshō the Bailiff).	2018年4月	Department of English, Utah State University	
96	ウェルズ恵子	『山椒大夫』の広がりや変遷：声、舞台、文学、映像	2018年3月	日本バラッド協会第10回大会、愛知学院大学	
97	西岡亜紀	『モスラ』における原始 vs 文明—文学(または文学者)の運命	2018年4月	第13回中村真一郎の会総会シンポジウム「生誕100年 中村真一郎と福永武彦」、明治大学	
98	川内有子	『仮名手本忠臣蔵』の英訳と外国人の歌舞伎鑑賞	2018年10月	第55回日本英文学史学会大会、大阪府教育会館たかつガーデン	
99	加納友子	マインドフルネス瞑想が共感的配慮に及ぼす効果のメカニズム—暗示仮説とマインドフルネス仮説の検証	2018年11月	日本催眠医学心理学会第64回六本木大会、東洋英和女学院	福原浩之
100	芳村弘道	陽明文庫の漢籍	2018年9月	第51回日本古文書学会大会、京都府立京都市・歴史館	
101	日暮雅夫	The Notion of Neoliberalism in the Critical Social Theory: Honneth and Fraser (批判的社会理論における新自由主義の概念：ホネットとフレイザー)	2018年11月	人文社会科学協会シンポジウム、カルフォルニア大学バークレー校キャリアセンター	
102	日暮雅夫	ポピュリズムと公共圏：J.ハーバーマス、N.フレイザー、A.ホネット	2018年9月	京都自由大学、京都社会文化センター	
103	日暮雅夫	ライブニッツ講義、ライナー・フォアスト教授、報告Dr.マーモウド・バッシオーニ、Dr.エヴァ・ブッデベルク、日暮教授とのパネルディスカッション	2019年3月	立命館大学	
104	栗谷佳司	戦後日本における表現としての音楽文化	2018年11月	日本ポピュラー音楽学会大会 ワークショップ、慶應義塾大学	
105	江口友朗	「競争的パラダイム論」から見た制度アプローチの展開とその理論的射程に関する一考察	2018年7月	『進化経済学会：現代日本の経済制度(全国)部会』2018年度第1回研究会	
106	櫻井純理	就労支援政策の意義と課題—半「就労」の質をどう担保するのか？	2018年9月	社会政策学会第137回大会、北海学園大学	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	第1回近代日本思想史研究会	衣笠キャンパス	2018年5月	15名	
2	第2回近代日本思想史研究会	衣笠キャンパス	2018年7月	15名	
3	第3回近代日本思想史研究会	衣笠キャンパス	2018年9月	15名	
4	明治維新150周年連続公開セミナー・明治維新とは何か？	衣笠キャンパス	2018年12月	20名	
5	第4回近代日本思想史研究会	衣笠キャンパス	2019年1月	15名	

6	2018年度「公議」研究会シンポジウム	茨木キャンパス	2019年3月24日	40名	
7	ワークショップ「間文化性と宗教」	衣笠キャンパス	2019年3月	30名	
8	ワークショップ「ジェンダーと身体」	衣笠キャンパス	2019年1月	40名	
9	International Conference on Future of the Past: Tourism and Cultural Heritage in Asia,	衣笠キャンパス	2018年8月	250名	チェンマイ大学、立命館大学アジア太平洋大学、JSPS 科研費 基盤研究 (C) 17K02142 「アジアにおける平和の記憶を紡ぐメディアとしてのダークツーリズム」(研究代表者:遠藤英樹)
10	Mobile Livis and After (The Talk by Prof. Anthony Elliott)	衣笠キャンパス	2018年10月	50名	JSPS 科研費 基盤研究 (C) 17K02142 「アジアにおける平和の記憶を紡ぐメディアとしてのダークツーリズム」(研究代表者:遠藤英樹)
11	2018年度 第1回 ダークツーリズム研究会	衣笠キャンパス	2018年11月	20名	JSPS 科研費 基盤研究 (C) 17K02142 「アジアにおける平和の記憶を紡ぐメディアとしてのダークツーリズム」(研究代表者:遠藤英樹)
12	2018年度 第2回 ダークツーリズム研究会	衣笠キャンパス	2019年1月	20名	JSPS 科研費 基盤研究 (C) 17K02142 「アジアにおける平和の記憶を紡ぐメディアとしてのダークツーリズム」(研究代表者:遠藤英樹)
13	International Symposium on “the Multiple Mobilities of Tourism”	衣笠キャンパス	2018年2月	150名	科学研究費基盤研究 (B) 17H0225 「現代社会におけるツーリズム・モビリティの新展開と地域」(研究代表者:神田孝治)
14	グローバル化のなかの東アジア3国の動態:社会経済の変容と政治的再統合の比較アプローチ (Comparative Approach to Socio-economic transition and Trends of Political Reintegration in East Asian Countries under Globalization)	衣笠キャンパス	2019年3月	50名	立命館大学コア研究センター・立命館大学社会システム研究所
15	日本型福祉モデル:「失われた20年」における変化と持続性 (Japanese Welfare Model: Continuity and Change during “the Lost Two Decades”)	衣笠キャンパス	2019年2月	20名	立命館大学人間科学研究所、JSPS (26285140, 17K13682)
16	ローレンス・マルソー先生との勉強会 『伊曾保物語』の絵巻(奈良絵本・絵巻)と東西の文化交流]	衣笠キャンパス	2018年11月	15名	
17	意識研究会 第25回定例研究会	立命館大学	2018年5月	15名	
18	意識研究会 第26回定例研究会	立命館大学	2018年7月	15名	
19	意識研究会 第27回定例研究会	立命館大学	2018年10月	15名	
20	意識研究会 第28回定例研究会	立命館大学	2018年11月	15名	
21	意識研究会 第29回定例研究会	立命館大学	2018年12月	15名	

5. その他研究活動(報道発表や講演会等)				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	奈良勝司	利用された愛国心 奥村五百子とその時代③	『西日本新聞』	2018年9月17日
2	奈良勝司	明治近代国家の出発点を多面的に検討する — 『明治維新をとらえ直す』をめぐって—	甲府カピバラゲストトーク、本と喫茶カピバラ	2019年1月6日
3	奈良勝司	150年目の明治維新論 — 『明治維新をとらえ直す』をもとに—	『明治維新をとらえ直す』刊行記念トークイベント、立命館生協ブックセンターふらっと	2019年1月18日
4	神田大輔	フッサール『ヨーロッパ諸学の危機』を読む	土曜講座 衣笠キャンパス	2018年9月
5	小田切建太郎	ハイデガー『存在と時間』を読む	土曜講座 衣笠キャンパス	2018年9月
6	林芳紀	ロールズ『正義論』を読む	土曜講座 衣笠キャンパス	2018年9月

7	佐藤愛	ミンコフスキー『生きられる時間』を読む	土曜講座 衣笠キャンパス	2018年9月
8	加國尚志	メルロ＝ポンティとフランス現代思想	2018年度初春講座 日独文化研究所	2018年2月-3月
9	加國尚志	身体の哲学と西洋哲学史	2018年度初夏講座 日独文化研究所	2018年5月-7月
10	遠藤英樹	地域における観光活動	大山崎町教育委員会ふるさと案内人養成講座	2018年8月
11	加納友子	意識研究会報告書2016-2018年度	立命館大学 意識研究会編(2018年3月)	2016-2018年度

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	藤野真挙	津和野町教育委員会	第1回西周賞	西周の法思想と教思想 ～「思慮」ある「激怒」が蠢(うごめ)く秩序～	2018年10月
2	遠藤英樹	観光学術学会	著作賞	ツーリズム・モビリティーズ	2018年7月
3	安田峰俊	公益財団法人角川文化振興財団	第5回「城山三郎賞」	『八九六四 「天安門事件」は再び起きるか』	2018年10月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	林尚之	近代日本立憲主義と戦後政治に関する総合的研究	基盤研究(C)	2016年4月	2018年3月	代表
2	奈良勝司	幕末維新期における「公議」の研究	基盤研究(C)	2017年4月	2019年3月	代表
3	加國尚志	間文化性の理論的・実践的探求-間文化現象学の新展開	基盤研究(B)	2014年4月	2019年3月	代表
4	伊勢俊彦	私の人々とともに住み、行動する世界の構成と自己の外部への依存の哲学的研究	基盤研究(C)	2016年4月	2018年3月	代表
5	青柳雅文	アドルノの亡命期間における現象学研究の解明	基盤研究(C)	2017年4月	2019年3月	代表
6	小林琢自	尾高朝雄の「現象学的」国家論における「全体」概念について	基盤研究(C)	2017年4月	2019年3月	代表
7	遠藤英樹	アジアにおける平和の記憶を紡ぐメディアとしてのデータツーリズム	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	代表
8	神田孝治	現代社会におけるツーリズム・モビリティの新展開と地域	基盤研究(B)	2017年4月	2020年3月	代表
9	四本幸夫	日本の世界農業遺産(GIAHS)地域の観光を通じた農村振興に関する比較研究	基盤研究(B)	2017年4月	2020年3月	代表
10	薬師寺浩之	開発途上国における観光者の問題視される行動に関する研究	若手研究	2018年4月	2020年3月	代表
11	加藤雅俊	批判的实在論に基づく現代国家の変容に関する総合的研究——社会統合の変遷に注目して	若手研究(B)	2017年4月	2020年3月	代表
12	日暮雅夫	批判的社会理論からのネオリベリズム批判	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	代表
13	小澤亘	デジタル図書によるトランスナショナルな外国人児童学習支援ネットワーク構築の研究	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
14	韓準祐	身体障害者の観光の現状と阻害要因に関する実証的研究	若手研究(B)	2016年4月	2019年3月	代表
15	大野哲也	ツーリズムによる災害復興に関する観光社会学的研究—居住者の生活の立場から—	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
16	クロス京子	移行期正義の概念的・制度的拡大—アチェとミンダナオにみる社会的・経済的正義とは	基盤研究(C)	2015年4月	2019年3月	代表
17	足立研幾	セキュリティ・ガバナンス概念の再検討	基盤研究(C)	2017年4月	2022年3月	代表
18	松田正彦	「脱農業化」する東南アジアに求められる熱帯農業理論の構築	基盤研究(B)	2018年4月	2023年3月	代表
19	松田正彦	ミャンマー中央乾燥平原のノーマル・ハザード適応型生業システムの変異と動態	基盤研究(C)	2014年4月	2019年3月	代表
20	本名純	インドネシアの中央・地方レベルにおける選挙政治の変容	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	代表

		と「庶民派」リーダーの台頭				
21	庵途由香	植民地朝鮮社会における朝鮮駐屯日本軍の実態と役割に関する基礎的研究	基盤研究 (C)	2015年4月	2019年3月	代表
22	ウェルズ恵子	ミンストレルショーと初期ミュージカルの研究:舞台芸能交流の観点から	基盤研究 (C)	2018年4月	2022年3月	代表
23	花崎育代	大岡昇平文学の基礎的および総合的研究—構想ノート・原稿類を含む—	基盤研究 (C)	2018年4月	2023年3月	代表
24	西岡亜紀	福永武彦と加藤周一を通じた1930~40年代の若手文学者の知的ネットワークの解明	基盤研究 (C)	2016年4月	2019年3月	代表
25	萩原正樹	『詞律大成』の総合的研究	基盤研究 (C)	2017年4月	2020年3月	代表
26	富嘉吟	和刻本唐人別集の総合研究	研究活動スタート支援	2017年8月	2019年3月	代表
27	日暮雅夫	批判的社会理論からのネオリベリズム批判	基盤研究 (C)	2017年4月	2020年3月	代表
28	栗谷佳司	1960年代後半の日本における表現文化と市民運動の交差に関する文化論的研究	基盤研究 (C)	2018年4月	2021年3月	代表
29	櫻井純理	福祉・労働を架橋する政策のガバナンスに関する国際比較研究—北欧と日本の地域政策	基盤研究 (C)	2018年4月	2022年3月	代表
30	川村仁子	国際的な官民連携による先端科学技術ガバナンスの研究: ナノテクノロジー分野を事例に	若手研究 (B)	2017年4月	2021年3月	代表
31	南川文里	アメリカ型多文化主義の後退と浸透をめぐる歴史社会学的研究	基盤研究 (C)	2018年4月	2022年3月	代表
32	加藤雅俊	批判的实在論に基づく現代国家の変容に関する総合的研究—社会統合の変遷に注目して—	若手研究 (B)	2017年4月	2020年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)

No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	伊故海貴則	幕末における「議論」の転換に関する研究—熊本実学堂と横井小楠を事例に—	公益財団法人高梨学術奨励基金平成30年度若手研究助成	2018年4月	2019年3月	代表
2	轟博志	朝鮮における古代道路の歴史地理学的復原に関する基礎的研究(国際共同研究強化)	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化)	2016年4月	2019年3月	代表
3	富嘉吟	和刻本唐人総集の総合研究	公益財団法人ヒロセ国際奨学財団第5回研究助成	2017年4月	2020年3月	代表

9. 知的財産権

No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
該当なし								